

【題名】国際シンポジウム 「生命現象の多様なタイミング機構の総合的理解：

Comprehensive understanding of diverse biological timing mechanism」

開催日時 平成19年11月2日(金)、3日(土)

開催場所 岡山国際交流センター

開催内容説明

生命現象は、秒単位で繰り返す心臓の拍動、分～年レベルで制御される発生、約1日の周期で繰り返すサーカディアンリズム、日～月の哺乳類の排卵周期といった生殖周期、さらには年単位の季節性のように生物時計やタイマーなどにより、時間軸上で厳密に制御されている。この時間軸の重要性は古くから多くの研究者によって指摘され、この視点に立った研究が進められてきた。本学では、体内時計に加え、光合成、発生・分化、環境適応、そして生殖等の生命現象を制御する多様なスペクトルの時間を対象として、異なる方法論を駆使した研究が行われ、個々に多くの実績を積んできた。このように個別に行われてきた生物の時間制御機構の研究を、時間およびタイミングの視点で統合し強力に推進し、時間を基軸とした生命科学を開拓するため、岡山大学では重点プロジェクト(学内COE)として「生命現象の多様なタイミング機構の総合的理解：時間を基軸とした生命科学の構築」に関する研究を過去2年半にわたり推進してきた。

このシンポジウムはこのプロジェクトの研究結果発表の一端として開催するもので、学内の研究者に加えて、国外から、David L. Denlinger (Ohio State University、合衆国)、Gerald Lincoln (University of Edinburgh、連合王国)、Vladimir Kostal (Czech Academy of Science、チェコ共和国)、Alaa El-Din Sallam (Suez Canal University、エジプト)、Jeffrey Schwartz (University of Adelaide、オーストラリア)、Alexander Vener (Linköping University、スウェーデン)などの著名な研究者を招待し、また、名古屋大学、九州大学、山口大学、岡山理科大学、川崎医科大学等の研究者の参加を得て、生命現象の時間的秩序を制御するタイミングに焦点をあて、最新の研究成果に基づいて議論し、理解を深めることを目的としている。

問合せ先 岡山大学大学院自然科学研究科(理) バイオサイエンス専攻 富岡憲治

TEL(086)251-8498